

1－1 日本とその周辺の地震活動（2025 年 11 月～2026 年 4 月） Seismic Activity in and around Japan (November 2025 – April 2026)

気象庁
Japan Meteorological Agency

今期間、日本とその周辺で M5.0 以上の地震は 160 回、M6.0 以上の地震は 21 回発生した。このうち日本国内での最大は、2026 年 4 月 20 日に三陸沖の深さ 19km で発生した M7.7 の地震（最大震度 5 強）であった。

2025 年 11 月～2026 年 4 月の M5.0 以上の地震の震央分布を第 1 図 (a) 及び (b) に示す。

(1) 北海道地方とその周辺の地震活動（本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2026 年 4 月 27 日 05 時 23 分に十勝地方南部の深さ 83km で M6.2 の地震（最大震度 5 強）が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構は北北東－南南西方向に張力軸を持つ型である。

(2) 東北地方とその周辺の地震活動（本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

三陸沖では、2025 年 11 月 4 日からまとまった地震活動が見られるようになり、2025 年 11 月 9 日 17 時 03 分に M6.9 の地震（最大震度 4）が発生した。この地震により岩手県の大船渡で 16cm などの津波を観測した。この地震は、発震機構（CMT 解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。その後も地震活動の活発な状態が続き、2026 年 3 月 8 日に M6.1（最大震度 3）、3 月 26 日に M6.7（最大震度 4）の地震が発生するなど、M6.0 以上の地震も度々発生した。そうした中、2026 年 4 月 20 日 16 時 52 分に三陸沖の深さ 19km で M7.7 の地震（最大震度 5 強）が発生した。この地震により岩手県の久慈港（国土交通省港湾局）で 79cm などの津波を観測した。この地震は、発震機構（CMT 解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。地震活動域は、三陸沖から岩手県沖にかけて、北西－南東方向におよそ 150km の範囲に広がっており、2025 年 11 月 9 日の M6.9 の地震の活動域の北西側に位置している。

2025 年 12 月 8 日 23 時 15 分に青森県東方沖の深さ 54km で M7.5 の地震（最大震度 6 強）が発生した。この地震により岩手県の久慈港（国土交通省港湾局）で 64cm などの津波を観測した。この地震は、発震機構（CMT 解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。また、同月 12 日 11 時 44 分には青森県東方沖の深さ 17km で M6.9 の地震（最大震度 4）が発生し、北海道のえりも町庶野で 0.2m、青森県の八戸港（国土交通省港湾局）で 14cm などの津波を観測した。この地震は、発震機構（CMT 解）が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。地震活動は徐々に減衰しているが、2026 年 1 月以降においても、1 月 17 日に M5.4、1 月 21 日に M5.3、1 月 22 日に M5.5、2 月 20 日に M5.1 の地震（いずれも最大震度 3）が発生するなど、M5.0 以上の地震が度々発生した。

(3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動（本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」参照）

2026 年 1 月 22 日 01 時 37 分に硫黄島近海の深さ 15km（CMT 解による）で M6.5 の地震（震度

1 以上を観測した地点はなし）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

2026 年 3 月 2 日 12 時 55 分に硫黄島近海の深さ 16km（CMT 解による）で M6.2 の地震（震度 1 以上を観測した地点はなし）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は北東－南西方向に張力軸を持つ正断層型である。

2026 年 4 月 1 日 10 時 06 分に茨城県南部の深さ 48km で M5.0 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。この地震はフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

2026 年 4 月 18 日 13 時 20 分に長野県北部の深さ 8km で M5.0 の地震（最大震度 5 強）が、同日の 14 時 54 分にもほぼ同じところで深さ 9km で M5.1 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。これらの地震は地殻内で発生した。これらの発震機構は、北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。今回の地震の震央付近では、4 月中に震度 1 以上を観測した地震が 37 回（震度 5 強：1 回，震度 5 弱：1 回，震度 3：7 回，震度 2：6 回，震度 1：22 回）発生した。

(4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2026 年 1 月 6 日 10 時 18 分に島根県東部の深さ 11km で M6.4 の地震（最大震度 5 強）が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震の発生直後、震央付近では 6 日 10 時 28 分に M5.1 の地震（最大震度 5 弱）及び同日 10 時 37 分に M5.5 の地震（最大震度 4）が発生した。1 月 6 日から 4 月 30 日までに震度 1 以上を観測した地震は 68 回（震度 5 強：1 回，震度 5 弱：1 回，震度 4：1 回，震度 3：6 回，震度 2：17 回，震度 1：42 回）発生した。

(5) 九州地方とその周辺の地震活動（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2025 年 11 月 25 日 18 時 01 分に熊本県阿蘇地方の深さ 9km で M5.8 の地震（最大震度 5 強）が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は、南北方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震の震央付近では、11 月 25 日から 30 日までに震度 1 以上を観測した地震が 47 回（震度 5 強：1 回，震度 4：1 回，震度 3：2 回，震度 2：14 回，震度 1：29 回），12 月に震度 1 以上を観測した地震が 14 回（震度 3：2 回，震度 2：5 回，震度 1：7 回）発生した。この地震により、熊本県で負傷者 1 人の被害が生じた（被害は 2025 年 12 月 3 日 14 時 00 分現在，総務消防庁による）。

(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動（本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2025 年 12 月 28 日 00 時 05 分に台湾付近の深さ 86km で M7.0 の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度 3）が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型である。

宮古島北西沖では、2026 年 2 月 26 日から地震活動が活発となり、2 月 26 日から 3 月 31 日までに震度 1 を観測する地震が 32 回（震度 3：1 回，震度 2：13 回，震度 1：18 回）で、これら一連の地震活動は、沖縄トラフ沿いで発生している。このうち最大規模の地震は 2026 年 3 月 2 日 19 時 39 分に宮古島北西沖の深さ 5km で M6.2 の地震（最大震度 3）が発生した。この地震の発震機構（CMT

解) は、北北西－南南東方向に張力軸を持つ正断層型で陸のプレート内で発生した。

(7) その他の地域の地震活動

2026 年 2 月 22 日 16 時 25 分に千島列島で M6.1 の地震(日本国内で震度 1 以上を観測した地点なし)が発生した。

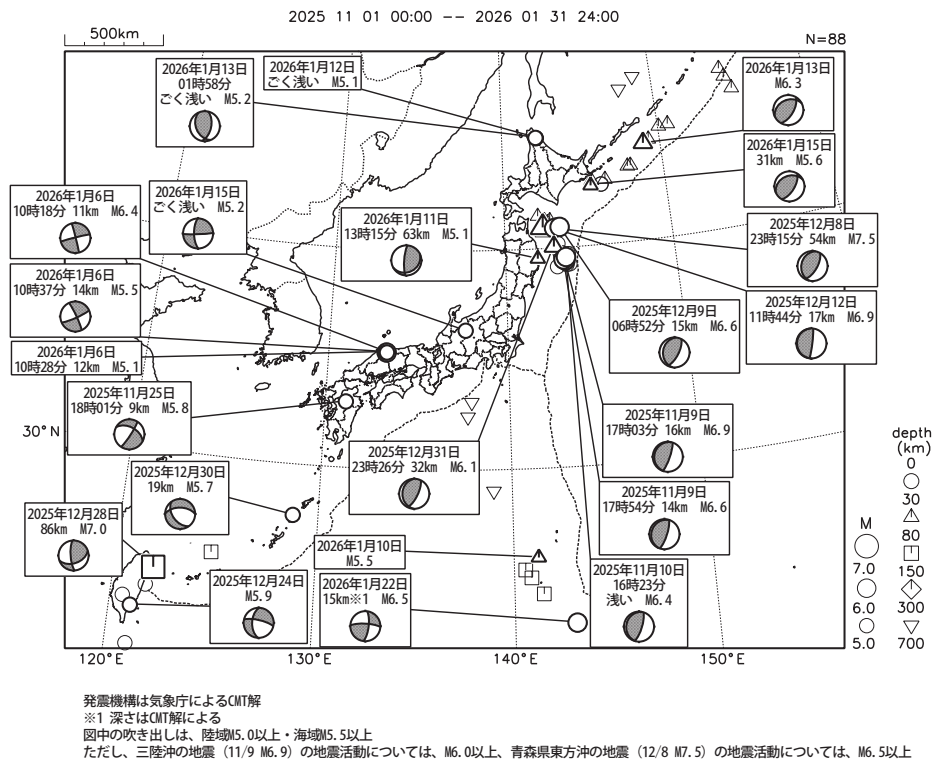
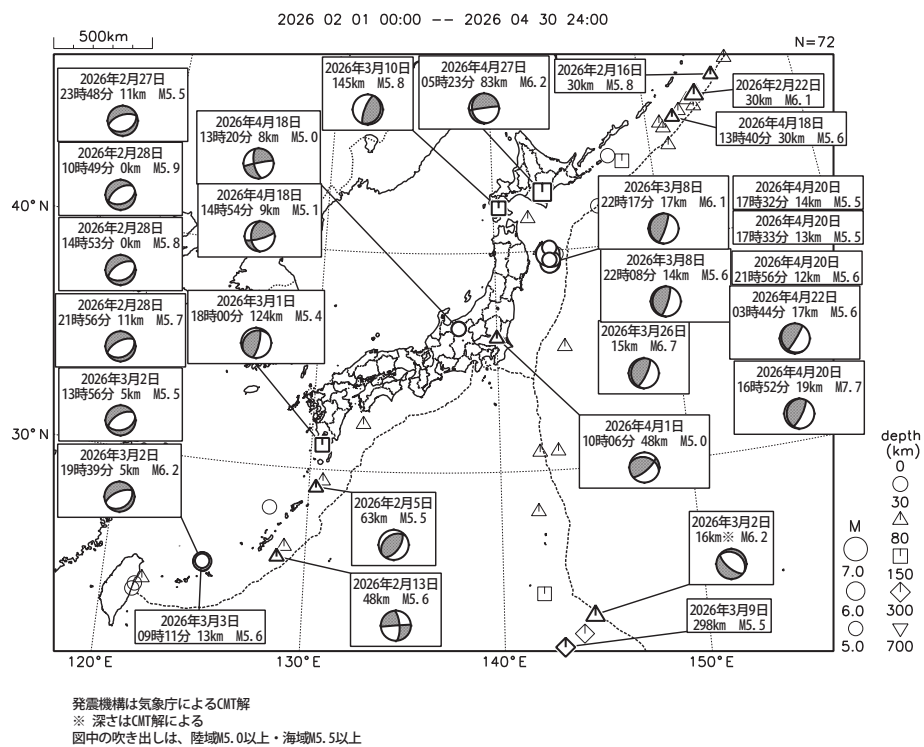
なお、本巻の気象庁作成資料は、特段の断りがない限り、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンラインデータ(平島、小宝島)、EarthScope Consortium の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成している。

2016 年 4 月 1 日以降の震源では、M の小さな地震は、自動処理による震源を表示している場合がある。自動処理による震源は、震源誤差の大きなものが表示されることがある。

2020 年 9 月以降に発生した地震を含む図については、2020 年 8 月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、日本海溝海底地震津波観測網(S-net)や紀伊水道沖の地震・津波観測監視システム(DONET2)による海域観測網の観測データの活用、震源計算処理における海域速度構造の導入及び標高を考慮した震源決定等それまでのデータ処理方法との違いにより、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがある。

2026 年 4 月 1 日以降に発生した地震を含む図については、2026 年 3 月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)による海域観測網の観測データの活用により、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがある。

震源の深さを「CMT 解による」とした場合は、気象庁 CMT 解のセントロイドの深さを用いている。

日本とその周辺の地震活動 (2025年11月～2026年1月、 $M \geq 5.0$)第 1 図 (a) 日本とその周辺の地震活動 (2025 年 11 月～2026 年 1 月、 $M \geq 5.0$, 深さ ≤ 700 km)Fig. 1(a) Seismic activity in and around Japan (November 2025 - January 2026, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).日本とその周辺の地震活動 (2026年2月～4月、 $M \geq 5.0$)第 1 図 (b) つづき (2026 年 2 月～4 月、 $M \geq 5.0$, 深さ ≤ 700 km)Fig. 1(b) Continued (February - April 2026, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).